

科研費の採択促進を目指して

清 浦 有 祐

科学研究費補助金（いわゆる科研費）は最も代表的な競争的研究資金であり、この獲得金額と獲得件数は各大学の研究力を評価する重要な要素となるものです。奥羽大学歯学部では4年前から科研費採択促進委員会を組織し、科研費申請書の書き方に関するセミナーや申請書のブラッシュアップを行うことで採択率の向上を目指しています。

今回は、採択される申請書について、公開済みの採択された申請書や私自身の経験から見えてきたこと9つを述べてみます。私見ではありますが、それほど実情と大きくかけ離れたものでは無いと思いますので、少しでも役に立つようであれば幸いです。

1. 申請書を書き始める前に以下の2つのことに注意して下さい。

①書かない理由を探さないこと

科研費を書き始めると必ず、「審査委員とコネが無いとダメ」、「初めから採択される者は決まっている」といったことを言う人がいます。日本の科研費採択ほど、公平に行われている科学事業は無いと思います。例えば、日本ではノーベル賞受賞者でも申請書の内容によっては、採択されないことがあります。本当に優れた研究者であれば、上記のようなことは決して言いません。書かない理由を探すことはやめましょう。

②科研費の公募要領をしっかりと読む。

1) このことは科研費に採択されるためのアドバイスとして、様々な書籍にも書かれていることですが、セミナーなどではどの講師も一番始めに述べることで、それだけ多くの人が繰り返して言うということは、全く守られていないことの証拠でもあります。

2) それぞれの研究種目にはそれぞれの目的があります。また、年度が異なれば、記載項目や内容に違いもあります。公募要領をよく読んで確認して下さい。

2. 第三者のアドバイスには謙虚に耳を傾けること

採択促進委員が申請書のブラッシュアップを行っても、その結果に全く反応していただけないことがあります。ブラッシュアップ担当者は、科研費の採択を複数回経験している教員のみを選んでいきます。謙虚に指摘事項の見直しや修正を行って下さい。もちろん、申請書の研究テーマと委員の研究テーマが完全に一致することはありません。したがって、アドバイスの中には、申請者の考えにそぐわないこともあるかもしれません。そのような場合であっても、まずは謙虚にそれを受け入れて自分の申請書を見直して下さい。

3. 研究に関する自分の強みと弱みの棚卸しを行うこと

1) 科研費の審査では申請者の過去の研究内容とその成果が重要視されます。今まで行ってきた研究内容、身に付けた実験手技や知識を確認して下さい。また、その際は自分の弱点も冷静に把握して下さい。

2) 申請者が今までに行っていない実験方法で、それが申請書の中で重要な項目であれば、それを行える研究分担者を必ず入れるようにして下さい。そうでな

れば、研究の実効性に疑問が持たれます。

4. オリジナリティと普遍性が同居していること

オリジナリティが欠如した申請書は採択されませんが、オリジナリティとは決して申請者の勝手な思い付きや独断を意味するものではありません。今までにない新たな発想や考え方に基づく研究を行う際は、それがサイエンスとして成り立つものであることを前提として下さい。サイエンスとして普遍性のあるものでなければ、単なる思い付きでしかありません。

5. その研究に国費を使用するのが妥当であること

科研費は当然、国費、つまり国民の税金を使用しています。したがって、その研究が国民の税金を使用するのに値するか否かが重要となります。税金を使用して行うべき研究か、それとも私企業の支援を受けて行うべき研究かが判断されます。税金を使用する価値のある研究ならば、そのことを審査委員に納得させる内容が申請書に記載されていなければなりません。

6. 研究テーマが2017年にふさわしいものであること

1) その研究テーマが2017年の日本で新たに取り組むのにふさわしいものであることは絶対に必要です。申請者がずっと取り組んでいた研究テーマであっても、それがすでに他の研究者によって大筋が解明されているテーマや重要性が薄れてきたものであれば、採択されなくとも仕方がないことです。

2) 研究者は誰でも自分の行っている研究にプライドを持つものですが、一度、自分の研究テーマの価値を客観的に俯瞰して考える必要があります。そして、すでに価値を失いつつあるのであれば、勇気を出して新たな研究テーマを探して取り組むべきです。

7. 共同研究者には必然性があること

研究分担者や連携研究者を加えて共同研究を行うことは素晴らしいことですが、その人選に必然性があることを審査委員に理解してもらうことが必要です。論文業績の多い者を加えて論文数を増やすことは誰でも考え付きますが、そのことは審査委員にも見抜かれています。研究を遂行するために真に必要な共同研究者でなくてはなりません。

8. 採択される申請書は平凡で普通の申請書

採択された申請書を見て、いつも感じることは極めて平凡で普通の申請書であるということです。図や写真の組合せが格別に優れているとか、一目で他の申請書と区別できるということはありません。ただ、違う点があるとすれば、「読んでいて安心する」ということです。つまり、この申請者であれば、必ず一定の研究成果を出してくれると審査委員が安心する申請書の内容であることが最も重要だと思います。

9. 研究の神様は必ず見ている

最後に若手教員の方々に伝えたいことを書いて終わりにします。科研費の申請書を書き上げることは、英文論文を書くこと以上に大変な作業です。深夜まで、あるいは日曜祝日にも大学に来て、申請書をひたすら書く作業が続きます。そのことを「研究の神様」は必ず見ていると信じて下さい。少なくとも科研費に関しては、努力は才能を上回ります。

(大学院研究科長)